

地域医療の旗印に集う仲間とともに クラウド型検診事業の発展・普及を目指す

——対策型胃内視鏡検診の将来展望は。

矢郷先生 今年度は検診対象を70歳代まで広げたことで、検診数が大幅に増える見込みです。新たに加わる参加施設がスムーズに検診事業にマニュアルを分かりやすく伝えていきます。また、アンケートで参加施設から意見を吸い上げ、より良い検診の仕組みをつくっていきたいです。

風見先生 当院も今年度から参加する検診施設のひとつです。昨年度の実績をふまえ、セキュリティ面や運営体制について信頼しています。着実に発展する板橋区の検診事業に貢献していきたいです。

矢郷先生 これからは間違いなくクラウドの時代。他の検診においてもクラウドという選択肢は一般的になってくると思います。だからこそ、試行錯誤しながら板橋区独自の検診システムを確立

し、多様な検診事業の“先駆け”として活用されれば何よりです。
——対策型胃内視鏡検診の実施、クラウドシステムの導入を検討している自治体様に向けてアドバイスを。

小林先生 検診事業においてセキュリティ体制は特に重要であり、クラウドシステムは前例が少ない分、不安に思う部分もあるかもしれません。AMCESにおいては、3省4ガイドラインを満たしていることがセキュリティの厳重さを物語っています。この確かな証を信用して突き進む前向きな気持ちが、対策型胃内視鏡検診を実現するうえで大事だと思います。

矢郷先生 検診事業を実現させるためには、ゴールを設定し、チームを牽引するリーダーの存在が不可欠です。そして、自治体から託された“健やかな地域づくり”というミッションに応えようとする情熱が、検診事業の成功に向けた推進力を生むと考えています。ぜひ忌憚ない議論を重ねながら、“ONE TEAM”としての結束力を高め、地域住民の健やかな生活をサポートする検診体制を構築していただきたいです。



河合 隆 先生

東京医科大学病院
内視鏡センター 主任教授

世界水準の検診技術とダブルチェック体制が 次世代の胃がん検診を支える

——胃内視鏡検診の有用性は。

河合先生 2016年4月に対策型胃内視鏡検診として内視鏡が推奨されて以降、検診数は着実に増加しています。その背景には、従来のX線検査と比較して胃がん発見率が高いことが挙げられます。胃がんを早期段階で発見することができ、早期発見時には内視鏡的切除で対応し、患者の身体的負担を低減することが可能。他の病気を併発するリスクを考慮すると、腹腔鏡手術より優位性があると思います。日本の検査医師における内視鏡スキルは高く、早期がんの発見に寄与していると感じますが、さらなるスキルアップを求めたいところです。

内視鏡検診においては若手の検査医師も意欲的に臨んでいる印象です。ただ、対策型胃内視鏡検診に携わるのは専門医ばかりではないため、検診クオリティの均一化は必要で

す。その課題を補うのが、二次読影医によるダブルチェックだと考えています。

検診現場と自治体から支持される AMCESのまだ見ぬ可能性に期待

——対策型胃内視鏡検診におけるAMCESの有用性は。

河合先生 所見や問診情報の項目が選択式のためスムーズな入力が可能であり、二次読影で異常がない場合にはボタンひとつで入力を完了できるため、読影業務全般の効率化につながります。私に対策型胃内視鏡検診のアドバイザーを務める板橋区では、自治体が要望する厳重なセキュリティをAMCESが満たしていたことも導入を後押ししました。利便性と安全性を両立した対策型胃内視鏡検診を実施する板橋区の事例は、クラウドの利便性を認識しながらも個人情報保護の観点から決断に至らない自治体・医師会にとって大いに参考になると思います。

AMCESはまだまだ伸び代があるシステムなだけに、クラウドを介したe-ラーニングやAIを用いたダブルチェックのサポートなど、今後期待する機能は枚挙に暇がありません。地域医療に日々貢献する先生方の検診業務を効率化し、日本全体の検診レベルを底上げするシステムへとバージョンアップしていったほしい。これは、内視鏡システム・クラウドネットワーク・AI技術・セキュリティ体制を網羅する富士フイルムだからこそ湧き上がる期待です。